

令和2年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	07	01	03	174360	観光ルート整備事業費	
総合計画	分野	01	しごと	政策	04 観光の振興	
	施策	03	移動しやすい観光地			
目的	観光客の利便性向上のため、二次交通の充実と市内回遊性を高める事業に対し支援を行う。					
対象	観光客					
意図	温泉地や観光地へ向かう観光客の交通手段を確保し、利便性の向上を図る。					
事業概要	花巻温泉郷共同送迎バス運行支援 8,550千円 花巻温泉郷が共同運行する、JR新花巻駅～各温泉施設の無料送迎バスの運行支援 どんぐり号、やまねこ号運行支援 4,350千円 花巻市内の主な観光施設を巡るツアーの運行支援 団体旅行貸切バスツアーの運行支援 2,790千円 県外及び海外からの団体旅行貸切バスツアーに対する支援					
市民参加の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	どんぐり号、やまねこ号運行日数	日	計画	300.00	300.00	
			実績	248.00	117.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	観光環状バス等の利用者数	万人	目標	5.90	5.60	
			実績	5.50	2.33	
2	団体旅行貸切バスツアー運行支援を受ける貸切バス台数	台	目標	600.00	500.00	
			実績	497.00	93.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け観光客が激減。このことに伴いバス利用者・団体バスツアー利用者も激減した。とりわけ例年団体バスツアー補助の8割を占めるインバウンドは壊滅的な状況であり、これらことから目標に及ばない結果となった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	バス路線等が充実していない当市の現状においては、観光客の負担を多少なりとも軽減するべく行政の支援を行う必要がある。
	妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	観光客のニーズに沿ったコースにするべく随時見直しを行うことで、より集客を高めることができる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	観光客や関係者からの意見を踏まえたうえで事業内容を毎年度見直しており、事業費・人件費いずれも削減余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	受益と負担のバランスは取れており、適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	コロナ禍ではあったが、花巻温泉郷への無料送迎バスの運行支援や「どんぐり号・やまねこ号」による観光ツアーへの支援により、観光客の利便性を向上させることができた。団体バスツアーへの支援についても、9月に補助金交付要綱を改正し国内バスツアーの補助要件を緩和したことで、9月以降は申請台数が飛躍的に伸び、前年比およそ150%の利用実績となった。
	次年度に向けて	二次交通の充実と市内回遊性を高めることにより、温泉地や観光地へ向かう観光客の利便性が向上され、リピーター確保につながることを期待されることから、立ち寄り先の観光施設等コース設定を随時見直し、より魅力的なコースを検討する。また、令和3年4月から11月にかけて市内に宿泊する教育旅行に対し、観光関連施設の入館料を無料とすることを併せて行うことで、団体旅行貸切バスツアーの催行を促し、当市を目的地とする教育旅行の増加につなげる。

令和2年度

事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	07	01	03	174390	観光案内板整備事業費	
総合計画	分野	01	しごと	政策	04 観光の振興	
	施策	03	移動しやすい観光地			
目的	観光客が花巻市内をスムーズに移動できるように、案内板を充実させる					
対象	観光客					
意図	観光客が移動しやすく、市民が案内しやすいような環境を整備する					
事業概要	観光案内標識等整備 5,158千円 構造上危険なものや、路線の変更、施設の改廃等により整備が必要なものについて、撤去、更新、修繕を順次行う。(案内板耐用年数10年) R2 撤去・更新・修繕 23基分					
市民参加の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	案内板の撤去、変更、新設	件	計画	14.00	4.00	
			実績	12.00	4.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	案内板表示に満足した観光客の割合【観光客アンケート】	%	目標	90.00	90.00	
			実績	84.00	87.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い			

成果指標の達成度の要因分析(成果指標を設定しない場合は、その理由を記載)		
例年より計画的に修繕・更新を行ってきたことにより、概ね目標値に近い数値となったが、老朽化した標識等の撤去も並行して行っていることや予算の平準化の観点から毎年度更新を少しずつ進めていることもあり、目標値を上回る結果とならなかった。 令和2年度は4件の契約により、観光案内板ほか関連看板を更新・修繕を実施。 アンケート調査により観光客の案内板への満足度を調査しており、成果指標には達しなかったが、前年度よりは満足度を上げることができた。これはコロナ禍により、アンケート調査でも観光地を応援する声が多く寄せられており、そうした機運によるものである。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	観光客が移動しやすく、市民が案内しやすい環境を整備することは、観光立市の実現を目指す市の責務である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	観光客がスムーズに移動できる環境は時間的余裕を創出し、市内の回遊性向上が期待できる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業の進捗状況により削減できる可能性がある。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	観光客が移動しやすく、市民が案内しやすい環境を整備することは、更なる交流人口の拡大が期待でき市全体に受益を及ぼす。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	観光案内標識の新設・更新等を行うには多額の経費がかかることから、事業費の平準化に努める必要があり、計画的に事業を実施する必要がある。
	次年度に向けて	観光案内標識の新設・更新等の整備計画の随時見直しを行い、観光施設の改廃、道路改良等により、案内が不足している部分や内容変更が必要な部分等に対応しながら、計画的な整備を行う。 令和3年度は市内に設置している観光関連案内板の情報をシステム化し、案内板全体の管理運営を図る予定である。